



中部電力パワーグリッド



誘導式水平ドリル（HDD）工法の適用 （その1）

送変電技術センター技術グループ 野中



00 目次

- 01 従来工法の概要
 - 02 誘導式水平ドリル（HDD）工法の概要
 - 03 HDD工法の適用に伴う課題
 - 04 （課題1）電力用ポリエチレン管の新規開発
 - 05 （課題2）現場検証
 - 06 まとめ
 - 07 その他
- 誘導式水平ドリル（HDD）工法の適用
（その1）にて説明
- 誘導式水平ドリル（HDD）工法の適用
（その2）にて説明



01 従来工法の概要

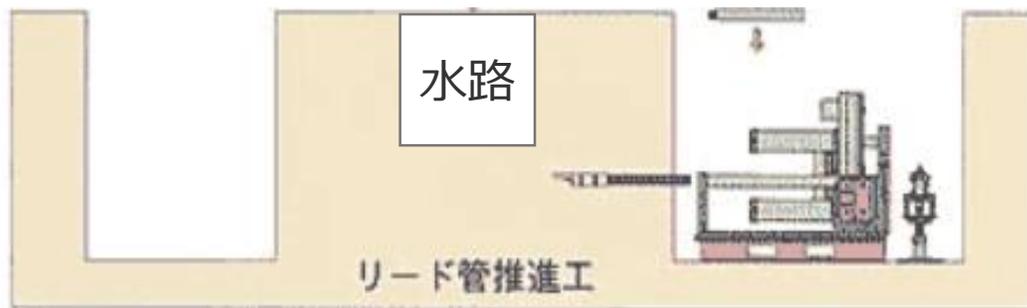
電力ケーブル用管路の埋設工事にて、水路等を下越す際に推進工法を用いる。

これまで当社にて採用してきた工法は、推進機を立坑内部に設置するため、工事費が高額となっていた。



立坑規模は、推進距離に関わらず一定規模以上の大きさが必要となる。

そこで、小さな立坑にて安価に施工できる推進工法を探していた



従来の推進工法（スピーダ工法）の例



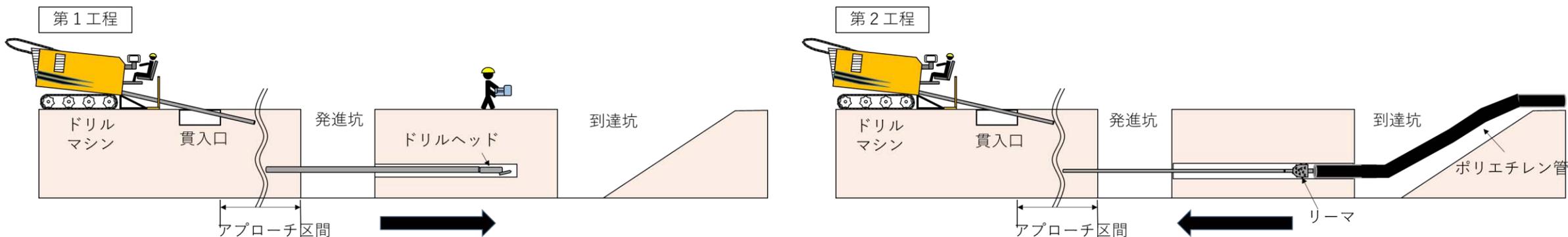
02 誘導式水平ドリル（HDD）工法の概要

立坑規模が小さくできる誘導式水平ドリル（HDD）工法に着目した。この工法は、推進機を地上部に設置するため、立坑規模を小さくすることが可能である。

HDD工法は、2工程方式の推進工法であり、以下の工程で管路埋設を行う。

○第1工程：地上に配置したドリルマシンからドリルヘッドを押し込み、削孔する。

○第2工程：削孔した孔に到達坑側から発進坑側へポリエチレン管を引込む。



HDD工法 概要図

02 誘導式水平ドリル（HDD）工法の概要





中部電力パワーグリッド

